

平成 22 年 5 月 22 日

## 全日本学生ラート競技選手権大会 競技規則 2010

全日本学生ラート競技選手権大会  
技術委員会

本規則は全日本学生ラート競技選手権大会における規定演技、及び自由演技に関する競技規則である。「全日本学生ラート競技選手権大会競技規則 2009」における加筆および変更部分を、太字・下線で示している。

### 1. 規定演技の部

規定演技の部では、全日本学生ラート競技選手権大会実行委員会によって定められた構成の演技を実施する。採点は「全日本学生ラート競技選手権大会採点に関する確認事項 2010」、「ラート競技採点規則 2006」に則って行う。

#### 直転の演技について

直転の規定演技には、直転級検定（日本ラート協会技術委員会、1998）に基づく演技を採用する。以下に、各級の最高点を示す。

- 1 級 10.00
- 2 級 8.80
- 3 級 7.80
- 4 級 7.20
- 5 級 6.70

以上の点数は、インカレ技術委員において、各運動の難易度を協議し、算出したものである。

#### 斜転の演技について

斜転の規定演技には、以下の演技を規定演技として定める。各級の満点は、インカレ技術委員において、各運動の難易度、運動数を協議し算出したものである。

5級 満点 2.80

- 1 大斜転・側方回転
- 2 大斜転・側方回転
- 3 振りとび下り

4級 満点 4.20

- 1 大斜転・側方回転
- 2 大斜転・側方回転・片手（手：回転方向のバーグリップ）
- 3 大斜転・側方回転・リンググリップ（両手で順手握り）
- 4 大斜転・側方回転
- 5 振りとび下り

3級 満点 5.60

- 1 大斜転・側方回転
- 2 大斜転・側方回転・片手（手：回転方向のバーグリップ）
- 3 大斜転・シュピンドル前方回転
- 4 大斜転・側方回転  
大斜転から小斜転への移行
- 5 小斜転（両ベルト）  
小斜転から大斜転への移行
- 6 振りとび下り

2級 満点 7.90

- 1 大斜転・側方回転
- 2 大斜転・側方回転・後傾
- 3 大斜転・側方回転
- 4 大斜転・側方回転・片手交互リンググリップ（手：順手握り）
- 5 大斜転・側方回転・開脚（足：回転方向の足を外し開脚バーへ）  
大斜転から小斜転への移行
- 6 小斜転・開脚（足：回転方向の足を開脚バーへ）
- 7 小斜転・閉脚（足：回転方向の足をベルト足に揃える）  
大斜転から小斜転への移行
- 8 振りとび下り

1級 満点 10.00

- 1 大斜転・フリーフライ側方回転
- 2 大斜転・側方回転・後傾
- 3 大斜転・側方回転
- 4 大斜転・シュピンドル前方回転

- 5 大斜転・シュピンドルブリッジ前方回転（足：回転方向の足を外しベルト足に揃える）
- 6 大斜転・側方回転・開脚（足：回転方向の足を開脚バーへ）  
大斜転から小斜転への移行
- 7 小斜転・開脚（足：回転方向の足を開脚バーへ）
- 8 小斜転・閉脚（足：両足を外し揃えてリングに立つ）  
大斜転から小斜転への移行
- 9 振りとび下り

### 跳躍の演技について

跳躍における規定演技とその最高点を以下に定める。

・開脚屈身跳び	10.00
・伸身跳び	9.50
・閉脚かかえこみ跳び	9.00
・開脚座り跳び	7.50

以上の点数は、「ラート競技採点規則 2006」を基に評価し、満点が 10.00 になるように各跳び方の最高点に 2.00 点を加えたものである。

## 2. 自由演技の部

自由演技の部では、直転・斜転・跳躍の各種目を以下の採点規則に則り行う。

- ・「ラート競技採点規則 2006」
- ・「ラート競技難度表（直転・斜転）2002」
- ・「第 12 回全日本ラート競技選手権大会の競技に関する追加確認事項」

## 3. 審判員の構成

規定演技の部直転・斜転では、実施審判員 2 名、規定審判員 1 名をおく。

規定演技の部跳躍では、実施審判員 2 名をおく。

自由演技の部では、実施審判員 4 名、構成審判員 2 名、難度審判員 2 名をおく。

以上